

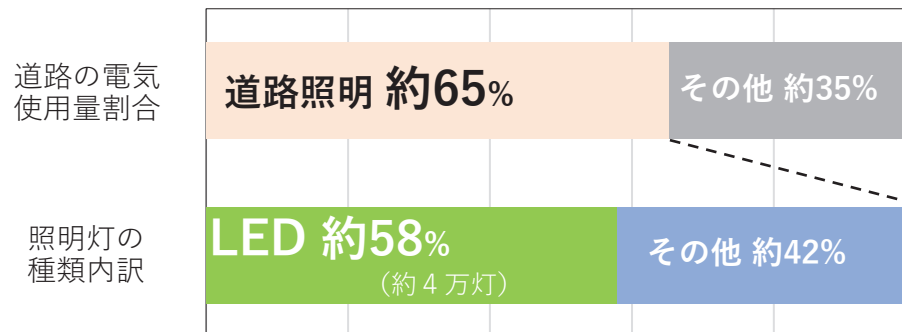
道路照明のLED化でCO₂排出量を削減

近畿地方整備局が管理する道路では、電気使用量の約7割を道路照明が占めています。このため、従来の高圧ナトリウム灯などよりも消費電力が大幅に削減できるLED灯に転換することにより、CO₂排出量の削減を進めています。また、センサー照明などの新技術の導入による更なる削減も進めていきます。

LED化の現状

近畿地方整備局管内

道路の電気使用量と照明灯の種類の現状（R7.3末現在）



LED灯



消費電力：125W

ランプ寿命：約15年※

高圧ナトリウムランプ灯



消費電力：285W

ランプ寿命：約6年※

約56%削減

約2.5倍長持ち

※1日あたり概ね12時間程度点灯を想定

LED灯は60,000時間、高圧ナトリウムランプ灯は24,000時間で計算

CO₂排出量削減効果

LED照明灯の15年CO₂量は約3.3 t

従来型に比べて約4.1 t の削減

(従来型（高圧ナトリウムランプ灯）の15年CO₂量は約7.4t)

⇒脱炭素化推進に寄与

センサー照明の導入

国道158号
中部縦貫道

トンネルを通行する車両の存在をセンサーで検知し、照明の調光制御に連動させる技術

従来の運用と比べ、
電力消費量約3割削減

